

広報広聴委員会先進地視察報告

- ・日 程：令和6年1月22日 午後1時30分から午後3時まで
- ・視察先：大阪府八尾市
- ・目 的：(1) 市議会だよりについて
(2) 公式SNS及び議会ポスターについて
(3) 市議会×高校生プロジェクトについて

1 八尾市の概要

八尾市は大阪府の中河内地域に位置しており、中核市に指定されている。地理上では大阪平野の中部、大阪市の東南部に隣接し、市域西側はおおむね平坦で標高は10メートル程度である。市の東部には高安山をはじめとする急峻な生駒山系が控えており、奈良県との府県境を形成している。人口は約26万人、世帯数は約12万8,000世帯（いずれも令和5年12月現在）。

八尾市議会の概要は、議員定数が26名で6つの会派がある。その内訳は、大阪維新の会が9名、公明党が5名、八尾保守の会、八尾の未来を紡ぐ会、日本共産党がそれぞれ3名、新声が2名であり、ほかに無所属が1名となっている。男女比は男性議員が18名、女性議員が8名で、平均年齢は50.7歳となっている。

2 市議会だよりについて

(1) 概要

昭和33年5月20日に創刊し、年間で定例会号4回、臨時会号1回の合計5回発行している。規格はA4白上質紙で、表紙と裏表紙はフルカラー、その他のページは2色刷りである。発行形態は、市政だよりと合冊で、市内全世帯、市内各施設、庁内等へ配布している。各世帯への配布方法は、宅配業者への委託による全戸配布としており、契約については市政だより担当課が結んでいる。令和4年度の配布コストは2,331万7,000円（年額）。

中核市で行われている議会報のコンクールでは、数多くの受賞歴があり、近年では、第14回で優秀賞（令和元年）、第18回で審査員特別賞（令和5年）を受賞している。

(2) 議会だより編集委員会について

委員数は7名。委員長は副議長が務め、委員は無所属を除く各会派から1名ずつで構成されている。大まかな原稿案を編集方針に基づき、事務局で作成する。編集委員会では、見やすく伝わりやすい誌面を目指し、原稿案を基に記事の配置場所や見出しをどうするかなど、レイアウトや文章について協議する。また、誌面に掲載する取材や写真撮影を行う。

(3) 編集方針について

以下の4つのことを基本方針としている。

- ア 「“伝える誌面づくり” から“伝わる誌面づくり” へ」 分かりやすい誌面を目指す。
- イ 議会に対する興味・関心をもっていただくための入り口として、議会の他の広報媒体につなぐとともに、会議録検索や映像配信等の媒体を活用してもらえるような誌面づくりを行う。
- ウ 議会に興味・関心を持ってもらえる記事、議会で議決したことが身近な暮らしにつながっていることを伝えるような記事、議会に関する豆知識の得られる記事、用語の説明、注釈等のある親切的記事づくり等、議会からの意欲的な情報発信が感じられる誌面づくりを行う。
- エ 文字、空間、写真、イラスト、図などのバランスが取れた誌面づくりを行う。

3 公式SNS及び議会ポスターについて

(1) 実施の経緯と概要について

議会広報は、ホームページや議会だよりを中心に行っているが、議会だよりは、発行が定例会終了から約1か月後の発行となり、速報性に欠けるなどの課題があった。また、ホームページは、会議の日程等の情報の更新を知らせる手段がないなどの課題があった。

さらにスマートフォンの普及により市民が情報収集するツールとしてのSNSの利用が増しており、平成29年度から令和元年度にかけて、市議会×高校生プロジェクトで行った「Meet&Greet」においても、参加した高校生から若い世代が関心を持ちやすくするため「SNSを活用した情報発信を行ってはどうか」という意見があった。

SNSの活用により、議会の見える化を促進し、これまで議会の情報が届きにくかった方へ議会の情報を届け、より多くの市民の方に議会の活動を知ってもらい、興味を持ってもらうことを目的とし、令和3年9月からツイッター（現X）及びフェイスブックの公式アカウントを開設した。1日最低1投稿を実施している。定例的な内容だけでなく、議員紹介や、議会の豆知識なども発信している。

(2) 議会開会ポスターについて

平成30年9月定例会から、市民の皆さんに関心をもってもらい、より理解を深めってもらうため、また、議員の広報への意識を高めるため、市内の高校や大学と協働するなどして、市議会開会ポスターを制作し、ホームページや市役所庁舎内、駅などに掲示する取組を行っている。

4 市議会×高校生プロジェクトについて

(1) 実施の経緯と概要について

平成29年度から高校生とコラボした様々な取組を行っている。取組の内容として、市議会だよりの表紙・題字を高校生から募集し、美術部や書道部などの作品や活動の様子の写真を表紙として採用することで、文科系部活動の活躍の場を提供している。また、高校生に議会や議員に対するアンケートを行い、その疑問に対して議員が回答する特集記事を市議会だよりに掲載した。レイアウト等に関しても高校生からの意見を参考にし、できるだけ文字数を減らし、画像やイラストを活用し見やすいものにした。

また、取材の際に高校生らに議会や議員に関する説明を行うことや、地域の生徒会に議場を開放し、議員との意見交換の機会を持つなど、開かれた議会を実践するとともに、若い世代に議会に関心を持ってもらう機会を設けた。令和元年度からは、編集委員である議員が学校へ訪問し、インタビューや写真撮影を行っている。

これらの内容が評価され、この取組が第13回マニフェスト大賞シティズンシップ推進賞優秀賞候補にノミネートされた。

(2) Meet&Greet with 八尾市議会について

平成30年度及び令和元年度に、主権者教育の一環として、学生に議会への関心を持ってもらい議会を身近に感じてもらうこと、学生の意見を議会だよりに反映させて、よりよい誌面としていくことを目的に、議員と高校生の座談会を開催した。議会だよりの編集委員会である議員7名と市内5高校の学生が参加し、平成30年度は「議会の広報について」、令和元年度は「議会の動画配信について」をテーマとした。

Meet&Greetに参加してもらったことで、これまでよりも議会が身近なものだと感じ取ってもらうことができたという。学生からは、「もっと堅い人たちばかりだと思っていたけど、話しやすく真剣にこちらの意見を聞いてくれた」、「政治への興味が増した。ほかの人にも同じような機会があればいいと思う」などの感想があった。

5 視察所感

基本方針の『『伝える誌面づくりから伝わる誌面づくりへ』分かりやすい誌面を目指す。』また、「広報媒体は、見てもらうことが大事」「親切的な誌面」などの考え方には、とても共感できた。

「やお市議会だよりの」は、市政だよりと合冊となっているとのことであった。市内全戸配布にかかる経費を節減できるというメリットはあるものの、仮に本市でも導入するとなると、課題も挙げられる。例えば、本市の広報はデザインやデータの編集作業など、全て自前で行っているが、ちた市議会だよりの原稿の内容と大まかなレイアウトを広報広聴委員会で決定し、細かなデザインは印刷業者が作成している。合冊にするには、広報ちたと同様に、議会において編集作業を行うことになる。八尾市

議会事務局ではアドビ社の編集ソフトを導入しているようだが、その習得に係る負担や費用対効果も含めて考慮する必要がある。担当者によれば、PCを操作する基本能力があれば、ソフトを使いこなすことはできるとのことだが、それなりのデザイン能力がないと不可能ではないかと感じた。

本市の広報広聴委員会でも話題になった「議員一人ひとりにスペースを割り当て、それぞれが責任をもって、一般質問の記事を作成する」といった取組が既に行われており、またその記事構成が想像どおり見やすかったことから、具体的な参考になり大変有意義であった。また、空白を活かし、無駄なイラストを挿入しないことや、タイトルの文字数を制限してインパクトを持たせることなど、紙面構成のノウハウも多く持たれていた。

SNSについては、1日1投稿を原則としてアップしているとのことで、継続することの大変さを痛感し、アイデアの捻出等、続けていくための仕組みづくりが必要だと感じた。議会ポスターについては、市内の大学と提携しているとのことで、一見、市議会広報のポスターには見えないものもあったが、斬新なアイデアで注目を浴びることができるという意味では面白い取組と感じた。

市議会×高校生プロジェクトについては、選挙権が与えられる高校生を対象としたことは、よい選択だと思う。開かれた議会、市民に近い議会を目指すため、本市で実施してもよいと思うが、高校の先生方や議会事務局の負担がかなり大きいのではないかと感じることから、八尾市が実施したほどの規模ではなく、昨年に本市で開催した意見交換会のようなものであれば実施可能であると思う。

広報媒体は見てもらうことが大事であり、議会だよりをはじめとした様々なツールを利用して少しでも議会のことを知っていただき、開かれた議会を継続して実践していくことが重要とのことであった。本市においても、大変参考となった。今回の視察の成果を今後の議会だよりの見直しに活かしていきたい。